自然保育推進事業認証　活動報告書

1．幼保連携型認定こども園ふたば

2．今年度の活動概要

(1)　環境構成に関すること

・同じ場所、同じ季節であっても自然の中の風景は変わり、変化に富んでいる。子どもたちの目線の中でどのように見え、聞こえ、香り、感じているかを保育教諭が読み解き、教育に役立たせる。

・小さな小動物の命さえも大切にする中、関心を持ち守ってあげたい、どんな場所、どんな食べ物を好むのか知りたい、という探求心の育ちを認める。

・周りにあるたくさんの自然物。現在の姿、過去の姿、そしてこれからの未来の姿を実体験を通して知り、大切にしようとする力、また、活用する力を育くむ。

(2)　特に印象的だった遊びの事例に関すること

〈広場での遊び〉

春：1年前の遊びの記憶のある年長児。「たしか…ここらへんに…」と子どもたちなりに予想してタケノコを探しに行きます。「あった！」と見つけるととても誇らしい顔に。一人では掘り出せないタケノコがあると「こっちにもてつだいにきて」と呼び寄せてみたり、見つけ出せない子は切り出してあった竹を手に持ち「ぼくもみつけたよ」と自信に満ち溢れている。

冬：春にはタケノコがニョキニョキ生えていた広場も冬になると一面の銀世界に。子どもたちが遊びに行く前には動物たちも雪の上にも遊びに来ていたのか、数種類の動物たちの足跡を見られました。所々には黄色いシミも見られ、「もしかしたら、オシッコ？」なんて驚きながら足跡をたどってみます。誰も足を踏み入れていない場所に足跡を発見すると「〇〇ちゃんこっちにも」と知らせて、お友だちと発見を喜んで見ています。

春：「えっ！あがっていいの」と斜面の上まで登れることに喜び、挑戦する姿がいっぱい。お友だちに助けの手をさしのべたり、後ろから支えてもらったり「こっちの枝を持ったらいいよ」と登り方のアドバイスをしてあげ、できることに満喫している。

夏：斜面の上まで簡単に移動ができるようになると、登りおりだけでは物足りなく、「おにごっこをしよう」と木々の間、斜面を上へ下へとスピードを出して走ったり、滑りおりたり。懸命に鬼から逃げている間にあちこちをぶつけたり、擦り傷をつけたり。そんなケガのこともお構いなしに夢中になって斜面のおにごっこを楽しむ。

秋：たくさんの落ち葉たくさんの小枝が落ちている中でのおにごっこ。逃げている最中に小枝の山へ頭からダイビングをしてみたり、足がはさまって抜けなくなったり、お友だちに「だいじょうぶ？」と心配されながら、脱出したり…。鬼から逃げることに集中して遊ぶ。

冬：降雪４０センチある中、キノコの森には、高い木々が地面を守っているのか、降雪もわずか。「なんでここにはゆきがないん」と不思議がる。その理由を個々に考えると「はっぱのうえにある」と上を見あげながら発見。「じゃあ、揺すってみたら」と提案すると数人が木を囲み力いっぱい揺すり始める。動かない木に力強さを感じていた。

〈川遊び〉

安全に配慮してライフジャケットを着て川遊びを経験する。はじめは恐る恐るはいり、お友だちに手をつないでもらったり、肩を貸してもらったり、一人ではできないことをお友だちに助けてもらい励ましてもらい川に水に流れに水温になれていく。「ここ。ここ！」とカエルを発見し、知らせ、一緒に観察したり「見つけた」と捕まえたサワガニをお友だちと一緒に観察する。

〈サンちゃんと友だちになる会〉

子どもたちが遊びに行く川には国の特別天然記念物のオオサンショウウオが棲息している。オオサンショウウオの棲んでいる場所にはどんな生物がいて、どうしてその場所を好むのか、親子で考えてもらう時間と普段子どもたちが遊んでいる場所を保護者にも知ってもらえる機会として設けている。

普段簡単に出会えないオオサンショウウオも安佐動物公園の飼育員さんに見せてもらい、生態を説明してもらい、オオサンショウウオの棲む川の生態系を知り、これからの未来へつながる子どもたちにも保護する心を育てていく。

〈モリアオガエルの生息地を訪ねて〉

希少生物のモリアオガエルが卵塊を産みつけている場所までお散歩に出かける。

目的の場所に近づくと山の木々に白い塊が見えるのを子どもたち自身が発見。目的の場所に到着すると無数の卵塊を見つけ、近くにはモリアオガエルも。「あそこにも。ここにも」と、指差しお友だちに知らせていく。

（３）その他、自然体験活動の実施にあたって工夫したこと

○職員間で川の構造・遊び場の確認、見守りの人員の配置、危険箇所の共通認識など行い、事故の防止に努める。

○突発的な行動の子どもへの対応など確認し、速やかに対応できるようにする。

○同じ場所であっても見える景色、感じることの変化に気づけるようにする。

（４）令和５年度への課題

○あそび場の確認を口頭では伝えているが、事前にルートの確認や人数把握確認箇所などお散歩マップを活用していきたい。

○擦り傷、切り傷なども遊びの中ではあることを保護者に理解していただき子どもの遊びへの欲求を満たしていくことを了承してもらう。